【プロジェクト支援Ｂ型】

技術シーズ等に関する調書

記載年月日：令和２年１月　　日

|  |  |
| --- | --- |
| 大学の名称 |  |

**〔プロジェクト創出の可能性があると思われる技術シーズ等に関する情報〕**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 技術シーズ等（１） | 名称 | 片麻痺患者用リハビリロボット |
| 責任者 | 工学部　准教授　□□□□ |
| パートナー企業候補 | ○○株式会社　or　探索中　or　未定 |
| 特許等知的財産の状況（出願予定含む。） | 特願201X-XXXXX（2018年XX月XX日出願）「発明の名称」出願人／権利者  or 20XX年度上期中に特許出願予定 or 2018年XX月頃機能確認用新規プログラム完成 |
| 概要 | ○○准教授が、20XX年に片麻痺患者に対するリハビリ効果が格段に大きい新規のリハビリ手法を開発した。しかしその手法でリハビリ治療できる療法士が少ないため、患者が自分自身でその手法を使ったリハビリができるロボットの研究開発を進め、機能確認用試作機を完成させたところである。 |
| プロジェクト創出・事業化に向けた活動（計画を含む。） | 〔例示１〕現在、製造パートナー企業を探索中である。探索したパートナー企業と共同研究を行う中でリハビリ手法をロボット化する技術を移転し、3年後に商品プロトタイプを製作したいと考えている。  〔例示２〕製造パートナー企業を想定し、協議を開始したところである。共同研究を行って3年後に販売開始する目標とすることで合意し、そこに至る計画について協議中である。  〔例示３〕学会発表や展示会の場で共同研究先の探索を始めたところである。共同研究先が決まった段階で事業化に向けた活動計画を策定する予定である。 |
| 技術シーズ等（２） | 名称 |  |
| 責任者 |  |
| パートナー企業候補 |  |
| 特許等知的財産の状況（出願予定含む。） |  |
| 概要 |  |
| プロジェクト創出・事業化に向けた活動（計画を含む。） |  |

〔注〕　技術シーズ等（１）及び（２）はできるだけ詳細に記載してください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 技術シーズ等（３） | 名称 |  |
| 責任者 |  |
| パートナー企業候補 |  |
| 特許等知的財産の状況（出願予定含む。） |  |
| 概要 |  |
| プロジェクト創出・事業化に向けた活動（計画を含む。） |  |
| 技術シーズ等（４） | 名称 |  |
| 責任者 |  |
| パートナー企業候補 |  |
| 特許等知的財産の状況（出願予定含む。） |  |
| 概要 |  |
| プロジェクト創出・事業化に向けた活動（計画を含む。） |  |
| 技術シーズ等（５） | 名称 |  |
| 責任者 |  |
| パートナー企業候補 |  |
| 特許等知的財産の状況（出願予定含む。） |  |
| 概要 |  |
| プロジェクト創出・事業化に向けた活動（計画を含む。） |  |
| 技術シーズ等（６） | 名称 |  |
| 責任者 |  |
| パートナー企業候補 |  |
| 特許等知的財産の状況（出願予定含む。） |  |
| 概要 |  |
| プロジェクト創出・事業化に向けた活動（計画を含む。） |  |
| 技術シーズ等（７） | 名称 |  |
| 責任者 |  |
| パートナー企業候補 |  |
| 特許等知的財産の状況（出願予定含む。） |  |
| 概要 |  |
| プロジェクト創出・事業化に向けた活動（計画を含む。） |  |
| 技術シーズ等（８） | 名称 |  |
| 責任者 |  |
| パートナー企業候補 |  |
| 特許等知的財産の状況（出願予定含む。） |  |
| 概要 |  |
| プロジェクト創出・事業化に向けた活動（計画を含む。） |  |
| 技術シーズ等（９） | 名称 |  |
| 責任者 |  |
| パートナー企業候補 |  |
| 特許等知的財産の状況（出願予定含む。） |  |
| 概要 |  |
| プロジェクト創出・事業化に向けた活動（計画を含む。） |  |
| 技術シーズ等（10） | 名称 |  |
| 責任者 |  |
| パートナー企業候補 |  |
| 特許等知的財産の状況（出願予定含む。） |  |
| 概要 |  |
| プロジェクト創出・事業化に向けた活動（計画を含む。） |  |

**〔その他、特記事項等〕**

|  |  |
| --- | --- |
| その他、特記事項等 |  |

〔注１〕技術シーズ等（11）、（12）、･･･を記載する場合には、前ページ（技術シーズ（７）～（10））をコピーして使用してください。

〔注２〕審査の段階で、調書責任者に対して、調書の内容についてご質問をさせていただくことがあります。

〔注３〕説明図、報道記事、その他の参考となる資料等を３枚まで添付することができます。

〔注４〕ピンク色の文字は、例示又は注書きとして記載しています。

ピンク色の文字のうち、申請に必要な情報については必ず黒色に変更してください。

ピンク色の文字のうち、申請に不要な情報は削除してください。